

死亡者数の長期推計に基づく火葬需給の試算①

各火葬場の**現在の年間火葬実績**をベースに、今後の需給状況を試算〔166,096件/年〕

⇒ **現在のままでは、2035年頃には火葬需要の増加に対応することが困難に**

	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070	2075
区市町村需要数(A)	137,480	150,356	160,127	164,844	163,280	173,439	187,833	199,204	201,788	195,385	187,100
区市町村火葬件数(B)	150,996	166,096	166,096	166,096	166,096	166,096	166,096	166,096	166,096	166,096	166,096
都外住民火葬数(C)	11,623	11,901	12,117	12,227	12,203	12,103	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
需要率((A+C)/B)	98.7%	97.7%	103.7%	106.6%	105.7%	111.7%	120.3%	127.2%	128.7%	124.9%	119.9%
需給差(B-(A+C))	1,893	3,839	▲ 6,148	▲ 10,975	▲ 9,387	▲ 19,446	▲ 33,737	▲ 45,108	▲ 47,692	▲ 41,289	▲ 33,004
区部需要数(A)	96,029	105,445	112,587	116,174	115,238	124,097	136,492	146,668	150,014	146,310	140,932
区市町村火葬件数(B)	107,329	118,062	118,062	118,062	118,062	118,062	118,062	118,062	118,062	118,062	118,062
都外住民火葬数(C)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
需要率((A+C)/B)	98.8%	97.8%	103.8%	106.9%	106.1%	113.6%	124.1%	132.7%	135.5%	132.4%	127.8%
需給差(B-(A+C))	1,300	2,618	▲ 4,525	▲ 8,112	▲ 7,176	▲ 16,035	▲ 28,430	▲ 38,606	▲ 41,952	▲ 38,248	▲ 32,870
市町村需要数(A)	41,451	44,912	47,540	48,670	48,042	49,343	51,341	52,536	51,774	49,076	46,168
市町村火葬件数(B)	43,667	48,034	48,034	48,034	48,034	48,034	48,034	48,034	48,034	48,034	48,034
都外住民火葬数(C)	1,623	1,901	2,117	2,227	2,203	2,103	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
需要率((A+C)/B)	98.6%	97.5%	103.4%	106.0%	104.6%	107.1%	111.0%	113.5%	112.0%	106.3%	100.3%
需給差(B-(A+C))	593	1,221	▲ 1,623	▲ 2,863	▲ 2,212	▲ 3,412	▲ 5,307	▲ 6,502	▲ 5,741	▲ 3,042	▲ 134

- ・ 需要数(A)は、死亡者数の推計値に都内流入を反映したもの。
- ・ 死亡者数は、東京の将来人口（都政策企画局）の「出生数」から「自然増減数」を差し引き、当該年9月末時点の過去5年間死亡者数の平均値として算出。地域別の死亡者数は、都総務局データの地域別死亡者割合に基づき算出。（2050年頃以降の割合は独自に推計。）
- ・ 都内流入は、市町村において火葬場を設置していない自治体の区部火葬場利用実態を反映したもの。（市町村において、火葬場を設置していない自治体の人口比率は約4割であり、当該自治体の区部火葬場利用率は約1/4であるため、2025年頃の市町村死亡者の1割と、以降の死亡者増分の4割については、市町村需要数から減算し、区部需要数に加算。）
- ・ 区部の都外住民火葬数(C)は区部火葬場の都外からの利用実態（R6年度13,435人）などを踏まえ設定。市町村の都外住民火葬数(C)は、埼玉県「市町村別将来人口推計ツール」で算出した埼玉県入間市（瑞穂斎場組合構成市）の死亡者数をもとに設定（2055年頃以降は据え置き）。
- ・ 2025年頃の火葬件数は調査におけるR6年度火葬実績と同数とし、2030年頃以降の火葬件数は火葬能力拡大等を見込んでR6年度比1.1倍増と設定。
- ・ 需給ともに島しょ除く。

死亡者数の長期推計に基づく火葬需給の試算②

各火葬場の**現在の年間受入可能件数**（R7年度時点で計画済の能力増を含む）をベースに今後の需給状況を試算〔218,221件/年〕
⇒現在の火葬場が年間を通じてフルに稼働できた場合でも、将来的には需給がひっ迫

	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070	2075
区市町村需要数(A)	137,480	150,356	160,127	164,844	163,280	173,439	187,833	199,204	201,788	195,385	187,100
区市町村火葬件数(B)	202,847	218,221	218,221	218,221	218,221	218,221	218,221	218,221	218,221	218,221	218,221
都外住民火葬数(C)	11,623	11,901	12,117	12,227	12,203	12,103	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
需要率((A+C)/B)	73.5%	74.4%	78.9%	81.1%	80.4%	85.0%	91.6%	96.8%	98.0%	95.0%	91.2%
需給差(B-(A+C))	53,744	55,964	45,977	41,150	42,738	32,679	18,388	7,017	4,433	10,836	19,121
区部需要数(A)	96,029	105,445	112,587	116,174	115,238	124,097	136,492	146,668	150,014	146,310	140,932
区部火葬件数(B)	152,793	163,610	163,610	163,610	163,610	163,610	163,610	163,610	163,610	163,610	163,610
都外住民火葬数(C)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
需要率((A+C)/B)	69.4%	70.6%	74.9%	77.1%	76.5%	82.0%	89.5%	95.8%	97.8%	95.5%	92.3%
需給差(B-(A+C))	46,764	48,166	41,023	37,436	38,372	29,514	17,118	6,942	3,596	7,301	12,678
市町村需要数(A)	41,451	44,912	47,540	48,670	48,042	49,343	51,341	52,536	51,774	49,076	46,168
市町村火葬件数(B)	50,054	54,611	54,611	54,611	54,611	54,611	54,611	54,611	54,611	54,611	54,611
都外住民火葬数(C)	1,623	1,901	2,117	2,227	2,203	2,103	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
需要率((A+C)/B)	86.1%	85.7%	90.9%	93.2%	92.0%	94.2%	97.7%	99.9%	98.5%	93.5%	88.2%
需給差(B-(A+C))	6,980	7,799	4,954	3,714	4,366	3,166	1,270	75	837	3,536	6,443

- ・需要数(A)は、死亡者数の推計値に都内流入を反映したもの。
- ・死亡者数は、東京の将来人口（都政策企画局）の「出生数」から「自然増減数」を差し引き、当該年9月末時点の過去5年間死亡者数の平均値として算出。地域別の死亡者数は、都総務局データの地域別死亡者割合に基づき算出。（2050年頃以降の割合は独自に推計。）
- ・都内流入は、市町村において火葬場を設置していない自治体の区部火葬場利用実態を反映したもの。（市町村において、火葬場を設置していない自治体の人口比率は約4割であり、当該自治体の区部火葬場利用率は約1/4であるため、2025年頃の市町村死亡者の1割と、以降の死亡者増分の4割については、市町村需要数から減算し、区部需要数に加算。）
- ・区部の都外住民火葬数(C)は区部火葬場の都外からの利用実態（R6年度13,435人）などを踏まえ設定。市町村の都外住民火葬数(C)は、埼玉県「市町村別将来人口推計ツール」で算出した埼玉県入間市（瑞穂斎場組合構成市）の死亡者数をもとに設定（2055年頃以降は据え置き）。
- ・2030年頃以降の火葬件数は**各火葬場が定める受入可能件数**（R6年度の受入可能件数を基本とし、調査で把握した今後の火葬枠拡大の計画も反映）。なお、民営火葬場は現状で高回転・高密度での運用を前提としていることを踏まえ、R6年度の稼働率が70%未満の施設は稼働率上限を80%と設定。
- ・需給ともに島しょ除く。

死亡者数の長期推計に基づく火葬需給の試算③

火葬件数の多い**1月**について、**受入可能件数**(R7年度時点で計画済の能力増を含む)をベースに今後の需給状況を試算〔18,887件/月〕
 ⇒ **冬季に関しては、現在の火葬場がフル回転できたとしても2040年頃には都全体で火葬需給がひっ迫**

	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2065	2065
区市町村需要数(A)	14,669	16,043	17,085	17,589	17,422	18,506	20,042	21,255	21,531	20,848	19,964
区市町村火葬件数(B)	17,593	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887
都外住民火葬数(C)	1,173	1,203	1,226	1,238	1,235	1,224	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
需要率((A+C)/B)	90.0%	91.3%	96.9%	99.7%	98.8%	104.5%	112.5%	118.9%	120.4%	116.7%	112.1%
需給差(B-(A+C))	1,751	1,642	577	61	230	▲ 843	▲ 2,355	▲ 3,568	▲ 3,844	▲ 3,161	▲ 2,277

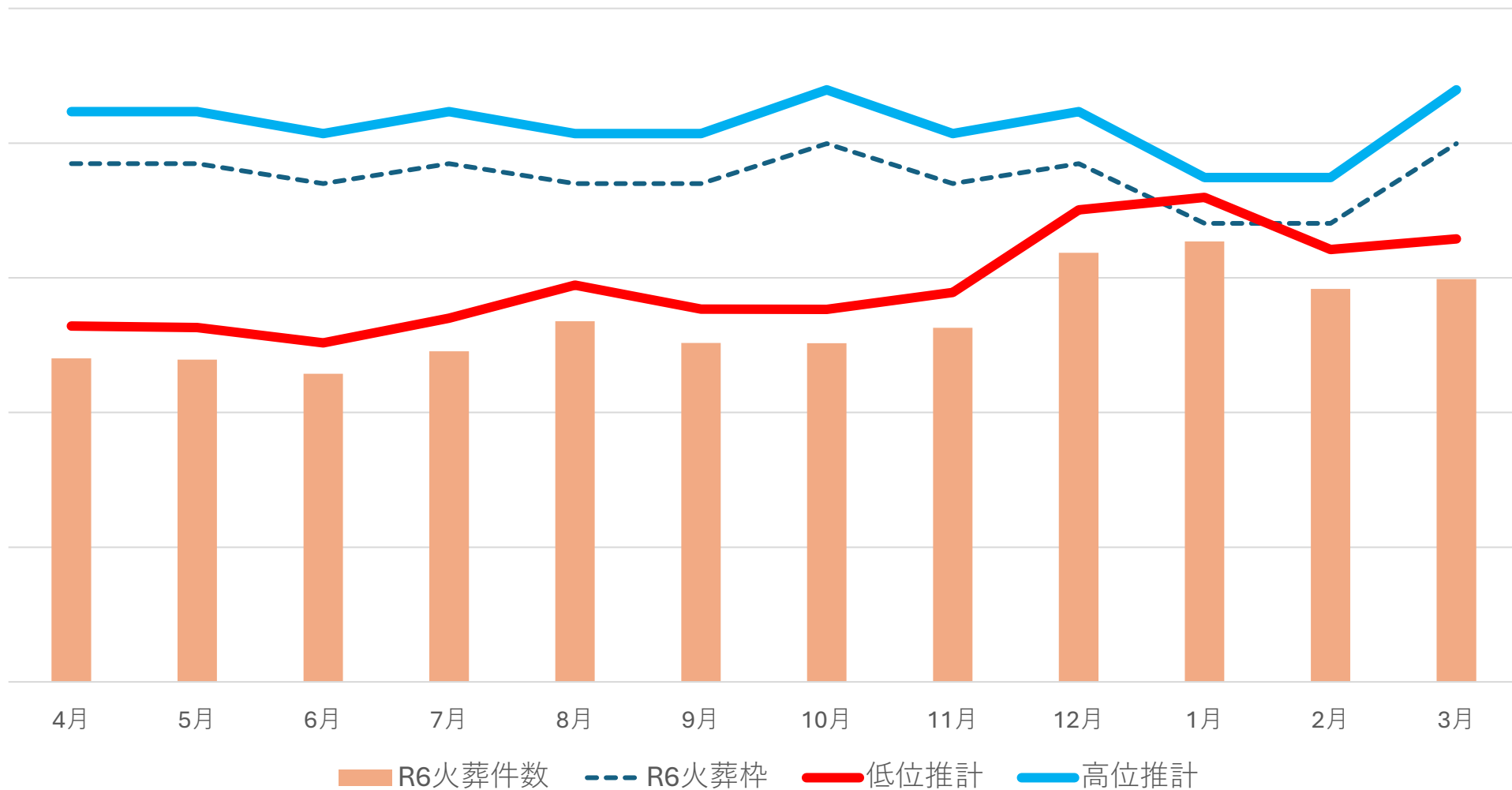
区部需要数(A)	10,246	11,251	12,013	12,396	12,296	13,242	14,564	15,650	16,007	15,612	15,038
区市町村火葬件数(B)	13,615	14,496	14,496	14,496	14,496	14,496	14,496	14,496	14,496	14,496	14,496
都外住民火葬数(C)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
需要率((A+C)/B)	82.6%	84.5%	89.8%	92.4%	91.7%	98.2%	107.4%	114.9%	117.3%	114.6%	110.6%
需給差(B-(A+C))	2,369	2,245	1,483	1,100	1,200	255	▲ 1,068	▲ 2,153	▲ 2,510	▲ 2,115	▲ 1,542

市町村需要数(A)	4,423	4,792	5,072	5,193	5,126	5,264	5,478	5,605	5,524	5,236	4,926
市町村火葬件数(B)	3,978	4,391	4,391	4,391	4,391	4,391	4,391	4,391	4,391	4,391	4,391
都外住民火葬数(C)	173	203	226	238	235	224	200	200	200	200	200
需要率((A+C)/B)	115.5%	113.7%	120.6%	123.7%	122.1%	125.0%	129.3%	132.2%	130.4%	123.8%	116.7%
需給差(B-(A+C))	▲ 618	▲ 603	▲ 907	▲ 1,040	▲ 970	▲ 1,098	▲ 1,287	▲ 1,414	▲ 1,333	▲ 1,045	▲ 735

- ・ 需要数(A)は、死亡者数の推計値に都内流入を反映したもの。
- ・ 死亡者数は、東京の将来人口（都政策企画局）の「出生数」から「自然増減数」を差し引き、当該年9月末時点の過去5年間死亡者数の平均値にR6年度都内死亡者に占める1月の割合**10.67%**（厚生労働省「人口動態統計速報」都内死亡届出数に基づく）を掛け算出。地域別の死亡者数は、都総務局データの地域別死亡者割合に基づき算出。（2050年頃以降の割合は独自に推計。）
- ・ 都内流入は、市町村において火葬場を設置していない自治体の区部火葬場利用実態を反映したもの。（市町村において、火葬場を設置していない自治体の人口比率は約4割であり、当該自治体の区部火葬場利用率は約1/4であるため、2025年頃の市町村死亡者の1割と、以降の死亡者増分の4割については、市町村需要数から減算し、区部需要数に加算。）
- ・ 区部の都外住民火葬数(C)は区部火葬場の都外からの利用実態（R6年度13,435人）などを踏まえ設定。市町村の都外住民火葬数(C)は、埼玉県「市町村別将来人口推計ツール」で算出した埼玉県入間市（瑞穂斎場組合構成市）の死亡者数をもとに設定（2055年頃以降は据え置き）。
- ・ 2030年頃以降の火葬件数は**各火葬場が定める受入可能件数**（R7年1月の受入可能件数を基本とし、調査で把握した今後の火葬枠拡大の計画も反映）。なお、民営火葬場は現状で高回転・高密度での運用を前提としていることを踏まえ、R6年度の稼働率が70%未満の施設は稼働率上限を80%と設定。
- ・ 需給ともに島しょ除く。

(参考) 火葬能力試算パターン別イメージ

(件)



試算① (低位推計) : R6火葬実績 + 将来の火葬能力拡大 (R6火葬実績 × 1.1倍と仮定)

試算②・③ (高位推計) : R6火葬枠 + R7年度時点での増炉計画などによる火葬枠増予定